

## 座談会

- 日時・場所 令和3年3月16日（火）午後7時～午後8時45分 西市民センター
- 参加者数 6人
- 進行 福岡テンジン大学 岩永 真一（代表）
- テーマ 「地域で活動してみても生まれた疑問や不明点を解決しよう」

### 座談会の流れ

岩永代表の進行（ファシリテーター）でスタート

#### ①参加者同士による、丁寧な自己紹介

→その人の背景を知ってから話すことで、話が展開しやすくなり、また、信頼関係も結びやすくなる。

#### ②いま感じている課題や疑問点を書き出し、各自発表する。

以下、参加者から出た課題と解決策の一部。

##### （1）世代を超えたコミュニケーションの仕方が分からない。

→現在は、スマホやSNS等の電子デバイスを使ったコミュニケーションが全盛。高齢者だからと、最新のツールを敬遠するべきではない。80歳を過ぎても、若者にアプリの活用方法を教えている人もいる。積極的に活用するべき。

##### （2）地域に集まれる拠点が無い。

→例えば、ほとんどのマンションに集会室があるが、そこがコミュニティ形成の場として盛り上がっているシーンをほとんど見たことがない。要するに「場所はあるが活用ができていない」だけ。

地域を見渡せば、集会所になる場所はあるはず。そこに人が集まるにはどうしたらいいかを考えるとよい。

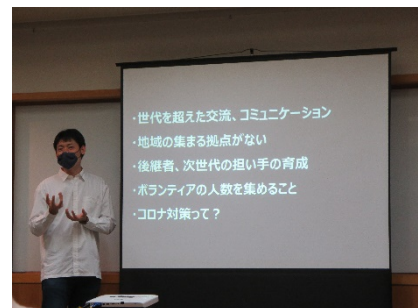
##### （3）若者は冷静で感情を表に出さない人が多いが、自分を含む

高齢者は感情的になってしまう人が多い気がする。どうコミュニケーションを取ったらよいだろうか。

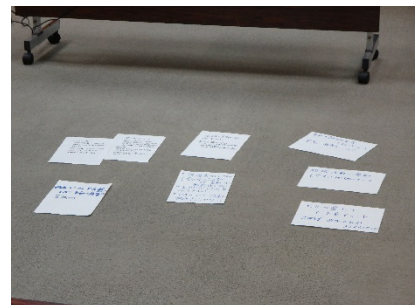
→若い世代は、メールやSNSなど、文字を介するコミュニケーションに慣れているため、言葉を一旦文字に置き換え、自身から切り離された存在として認識する傾向がある。つまり、言葉が人格を帯びにくいということ。一方、文字を介するコミュニケーションに慣れていない世代は、言葉＝自分自身であるため、自ずと言葉に感情が乗っている。この違いを意識することが、円滑にコミュニケーションをとるための一つの方法。

#### ③本日の振り返り

本日の座談会において、地域活動を行うなかで、世代間のコミュニケーションの取り方に苦労しているという声が複数上がっていた。ツール（スマホやSNS）は労力をかけずに多数に向けて情報発信をするのに便利な一方、人同士の信頼関係を結ぶという点では対面での会話のほうが優れて



進行中の岩永代表



参加者が書き出した課題や疑問点

いる。それぞれの特性を意識して活用することが大切。

また、議論と対話の違いについても認識する必要がある。議論は、相手の意見に批評を加え、自分の意見を押し通そうとするもので、声の大きな人の意見が通りやすく、場の空気が悪くなることが多い。一方、対話は、お互いの意見を尊重しながら良い空気感の中で会話することで、信頼関係が結びやすい。そのため、地域活動においては、対話によって物事を進めるほうが良い結果を生みやすい。